「16創年の会」

「16創年の会」の皆さん

旧藤代町が主催した「男性学講座」を、平成16年に受講された皆さんが結成したのが「16創年の会」です。この講座は、定年退職された方が、次のステップに進むために勉強する場として開催されました。平成16年の講座が修了する時に、「せっかく勉強したのだから、何かみんなでやろう」と集まったのが現在のメンバーで、会員は20名です。

●活動を通じてまちおこしをしよう！

同会の皆さんには、共通点がありました。それは、他県の出身で、家庭を持ってから藤代に家を設けたこと。「皆サラリーマンで、家には寝に帰るだけで、勤務は東京。そして実際にリタイアしてみたら、まちに知り合いがいないし、まちを知らない（笑）。そこで、まちをもっと知って、我々に続く後輩に、こんな所があると教える活動をしてはどうだろう、それを通じてまちおこしをしようと夢を持ったのです」と初代会長の野々下善一さんは話されました。

●自分たちが楽しみ、交流を広げる

まずは、人の集まる場所と機会をつくる活動をしようと、まちを歩いて自分たちの目で確認し、取手市内の良い場所を選んで「いろはかるた」を作成。この「いろはかるた」は、藤代駅のギャラリーに過去5年間2月末から3月上旬の1週間展示しました。さらに、市民の方に交流をしてもらおうと、ローンボウルズというスポーツを始めました。カーペットの上でソフトボール大の重心が片寄ったボールを転がして、目標球に近づける競技です。「やってみたら、お年寄りから幼稚園児までハンディなしで楽しめ、皆が交流できるので、年に2回大会を開催しています」と野々下さん。今年の第10回大会は、100名以上の参加で大々的に開催するのが目標だそうです。

藤代スポーツセンターで開催された第9回ローンボウルズ大会

農園

農園

また、4年前に畑仕事の好きなメンバーが集まり、小貝川の側の約200坪の草地を開墾して作った。「16農園」にも力を入れています。「大きな草を刈って燃やすことからスタートしたので大変でした（笑）。夏の野菜はローンボウルズ大会の参加賞に、冬の野菜は市内の7カ所の施設に届けて喜ばれています」と会長の山下勲さん。サツマイモは、近所の久賀保育所子どもたちが苗を植えたもので、散歩の度に成長を見に来ているそうです。この他、歌声喫茶の開催や小貝川の清掃活動を行ったり、市社協の「いこいの場」事業のボランティアとしても活躍しています。

農園ではジャガイモ、サツマイモ、サトイモ、キャベツ、オクラ、ヒョウタンなどがすくすくと育っていました。

●全員が主役、何でもできるのがいい

同会のモットーは、「全員が主役」です。4つの部会にそれぞれが所属していますが、企画を実行する際には全員が参加します。また、世話役の会長、副会長、書記、会計は2年ごとの交代制です。だからこそ常に新鮮で、活動が固定せずに広がりを見せているのだそうです。今後は、この会を後輩に繋いでいく活動も始めたいということでした。自分たちのまち、自分たちの時間を充実させる活動に、いきいきと取り組む皆さんです。

初代会長の野々下善一さん（右）と現会長の山下勲さん（左）

いばらきの社会福祉
Social Welfare of Ibaraki

発行者／社会福祉法人 茨城県社会福祉協議会
〒310-8586 水戸市千波町１９１８
電話　029(241)1133(代)
FAX　029(241)1434
http://www.ibaraki-welfare.or.jp/
E-mail　ibashakyo @ibaraki-welfare.or.jp

携帯電話で読み取るだけで簡単に「茨城県社協HP」にアクセスできます。

PRINTED WITH SOY INK 環境に配慮して再生紙と大豆油インキを使用しています。